

「生活の核となる活動を」

富士宮地区 労 福 協 120人参加し新年の集い

富士宮地区労働者福祉協議会による新年の



さらなる活動推進を願って小林会長らが鏡開き

集いが18日、同市黒田のゲストハウス・フォレストヒルズで開かれた。

同日は会員約120人が参加。あいさつに立った小林純一会長は、23年前の阪神淡路大震災に触れながら自助・共助の大切さを語り、「公助ばかりに頼るのではなく、自分を守り、共に助け合う人であってほしい。労福協は共助をする団体であり、人の生活の核となる活動をしていきたい」と述べた。

来賓の須藤秀忠市長

は「継続して労働者に寄り添い、生活向上を目指していきたい」と語った。

小林会長らによる鏡開きの後は、会食や富士宮地区若者の会による「フラフラブくべり」などのゲームを楽しみながら、会員同士の交流を図った。